

ふるさとこまつの
魅力アップのために



なかにし はじめ
中西 肇
議員

一括質問



動画でチェック

◆文化財保存活用地域計画について

Q 小松市文化財保存活用地域計画の趣旨と今後の進め方について。

A 本計画は、文化財の保存、活用に関する総合的な計画であり、将来像や事業の方針、取組を設定している。今後、概要版を作成し、認定記念フォーラムを開催する。また、地域住民等と連携協働し、計画の実現を目指す。

◆加賀国府の調査について

Q ふなんやま（南野台遺跡）確認調査について。

A 室町時代の礎石建物跡など府南社に関連する発見があった。文献資料で確認できた中世府南社が存続した証拠と考えられ、国府の実態解明に向けた大きな成果である。

◆図書館について

Q 未来型図書館の配架及び蔵書計画について。

A 未来型図書館の蔵書は、開館時には現図書館の約20万冊に5万冊を加えた25万冊とし、開館10年間で35万冊を目指す。

また、公開選書などの機会を設け、民間事業者によるテーマ設定や購入図書の選定を行い、司書や学芸員等を含めた企画運営会議を通じて、市と民間事業者により決定する。

Q 移動図書館は、東日本大震災を機に再評価された。みどり号に新たな機能を加え、未来型の移動図書館を提案する。

A みどり号は、小学校を中心に21ステーションを巡回している。導入から26年経過し老朽化が著しい。貸出冊数、貸出者数ともに減少が続き、需要回復が見込めない。一方、みどり号の役割をカバーするサービスも提供されており、今年度末をめどに廃止の方向としたい。

Q 南部図書館、空とこども絵本館について。

A 南部図書館は、地域密着型の図書館として生涯学習・コミュニティ活動拠点の役割を担う。空とこども絵本館は、絵本専門図書館として絵本との出会い、親子の絆を深める場としての役割を担う。これら2施設は未来型図書館の開館後も市の直営として運営を行う。

◆内水対策について

Q 梯川や前川の樋門やフラップゲートの設置状況、未設置箇所への対応は。

A 梯川（国土交通省管理）では、全ての施設でゲート等の逆流防止対策が講じられている。前川（石川県管理）でも対策はされているが、ゲート等の設置がない施設もあるので、石川県に改善指導等を図るよう要望していく。

◆避難所や公民館の停電時の対応について

Q バックアップ用の電源設備について。

A 指定避難所67か所のうち、自家発電等の非常用電源が設置されているのが6か所、ポータブル式の発電機を配備してあるのが54か所、配備がないのが7か所。大規模な停電や停電が長期化する場合は、自主避難所等の開設を想定している。

Q 防災行政無線放送施設は稼働するのか。

A 町内会の簡易無線基地局は停電時に放送できなくなるが、市の親局から町単位で各家庭の戸別受信機へ緊急放送を流すことは可能。

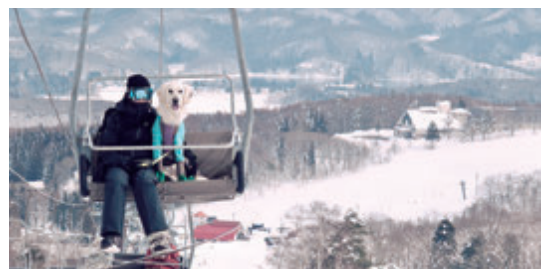
Q EV車などで対応できないか。

A EV車で大型家電を給電するには、建物側に受電設備が必要。EV公用車を臨時電源として活用することについては検討していきたい。

◆愛犬と行けるスキー場

Q 大倉岳高原スキー場をペット同伴にできないか。

A 犬の同伴を可能としているスキー場では、同伴可能エリアを限定するなどの工夫がされているが、大倉岳高原スキー場は、施設の規模から考えてエリア分けが難しい。安全対策も含め慎重な判断が必要となるが、新規需要の掘り起こしは重要であり、最大限活用できる方法を検討していきたい。



愛犬とスキーを楽しむ Photo by @11sunny03

愛犬と行ける
スキー場について



にいた ひろゆき
新田 寛之
議員

一括質問



動画でチェック

「勸進帳のふるさと」が
勸進帳を上演しない？



よしもと しんたろう
吉本 慎太郎
議員

一括質問



動画でチェック

◆日本こども歌舞伎まつりin小松が来年で終了となる

Q 北陸新幹線が開業し「歌舞伎のまち・小松」を全国に発信していく中、このタイミングでの終了は、あまりにも唐突といえないか。

A 小松＝歌舞伎というイメージの向上と定着は図られ、当初の目的は十分に達成したと考えている。

Q 「勸進帳のふるさと」として、市民が上演する機会を堅持すべきでは。

A 日本こども歌舞伎まつりとしては来年が大千穂楽だが、形は変わっても何かできる方法がないか、引き続き模索していきたい。中学校の古典教室についても、持続可能な指導体制を検討していく。

◆小松市版幸福満足度調査の実施を

Q 市民病院、アリーナ、未来型図書館等、市民生活に直結した課題を多くの市民に問い、より多くの「声」を集めながら市政に反映させるべきでは。

A 今後も市民の皆様の声の収集はもとより、市政の重要な案件についての判断は、

市議会で十分議論して市政に反映していきたい。

◆出生数について

Q 小松市の2025年上期の出生数は。

A 368人で、前年同時期と比べて44人増加している。

Q 小松市ビジョン総合戦略では2029年の目標値を800人と定めている。目標達成に向けての取組は。

A 産業創生や新しい宅地開発などによる安定した生活の整備を図るとともに、「ダントツの子育て」を掲げる手厚いソフト事業により、子育て環境づくりに全力で取り組んでいく。



勸進帳のふるさと・小松

アリーナ構想について

◆アリーナ構想について

Q 北國FHDより「民設民営」で建設が発表されたアリーナ構想だが、建設費の高騰等を理由に「民設民営」を断念し「官民一体」でアリーナ構想を進める方針が発表された。小松市はこれまで北國FHDとどのような話し合いをしてきたのか。

A アリーナ構想は、令和4年に北國FHDが「民設民営」のアリーナを核とした地方創生プロジェクトとして発表したもの。当初、事業費は150～200億円と試算されていたが、令和6年には約280億円に膨らみ、うち半分程度を自治体などからの公的支援を求める方針が示され、市も国の補助事業の活用について相談を受けていた。その後、今年5月、北國FHDは事業費が350億円まで増加したことにより、民設民営を断念し、官民一体での実現を目指す旨の意向を示したところ。



臨空エリア（2040年ビジョンより）

Q 「できればいい」ではなく小松の将来のため、積極的にアリーナ構想実施に向けて可能性を追求すべきと考えるが市長の考えは。

A アリーナ整備は、本市のみならず南加賀エリアに新たな機能を創出し、地方創生や自治体間競争で大きなメリットをもたらすものと期待している。民間によるプロジェクト推進が断念されているが、国・県・市が一体的に、今後も柔軟に公的支援の検討を進めていく。

◆小松市の経済対策について

Q 景況判断は。

A 先行きが不透明で、企業の不安感が広がっていると感じている。

Q 最低賃金引き上げは中小零細企業の経営を直撃する。市の対策はあるのか。

A 県と連携し情報提供など適切に行っていく。

Q エンゲル係数が話題になるほど物価高騰対策は喫緊の課題である。市の対応は。

A 本年度は高齢者予防接種の自己負担額の抑制に加え、働く世代応援自治体マイナポイント事業やデジタル地域通貨活用事業などに取り組む。

たかの てつろう
高野 哲郎
議員

一括質問

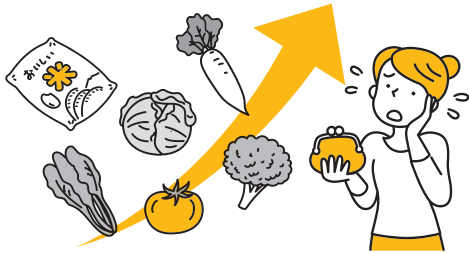


動画でチェック

◆物価高騰・猛暑は今後も長引くと予想される

Q 全世帯に水道料、電気代の助成支援対策が、低所得者及び子育て世帯にお米券の支給支援対策が必要と思う。

A これまで非課税・高齢者・子育て世帯に臨時給付金を支給した。今年度は働く世代を対象に自治体マイナポイント事業やデジタル地域通貨を活用した事業に取り組む。



◆本市の保育行政について

Q 75年ぶりの見直しの内容は。

A 保育士の配置基準を、令和6年度は4・5歳児25名に対し保育士1名、3歳児15名に対し保育士1名とした。令和7年度は1歳児5名に対し保育士1名とする。

Q 現在の本市での配置基準の状況は。

A 配置基準どおりの職員を配置できている。

◆こども誰でも通園制度について

Q どのような制度で、一時預かり事業との違いは。ニーズはどれくらいと考えるのか。

A 6か月から3歳未満の子ども園等に未入所の子供が月10時間まで保育園等に過ごすことができる事業である。市が利用状況等を把握できるため、支援が必要な家庭や子供の把握に繋げていくことが可能。主たるニーズは0歳児と考える。

Q 保育士の受入体制をどう考えるのか。

A 2歳児以下の入所児童数を超える受入れが可能か、保育士の配置基準を下回らないか等、各施設と協議の上実施園を選定。

Q 条例化へのスケジュールは。

A 12月議会以降に必要な条例を制定し、令和8年4月の開始を予定している。

物価高騰・猛暑から市民の命と暮らしを守る対策について



はしもと よねこ
橋本 米子
議員

一括質問



動画でチェック

◆リチウムイオン電池の発火事故と新しいGIGAスクール端末について

Q 市内のモバイルバッテリーや充電式小型家電による火災事故の状況は。

A 家庭用のものでは通報はない。工場で発火の通報が一件あった。

Q エコロジーパークには火災のAI探知や消火システムはあるか。

A 備えている。リサイクルセンターでは、破碎ごみを職員が手選別で仕分けしている。

Q 市にリサイクルボックスなどを置くことを提案する。

A 市民への周知の在り方など、円滑な回収、リサイクルについて検討する。

Q GIGA端末にリチウムイオン電池が搭載されている。啓発の予定は。

A tetoru連絡システム等を通じて周知したい。

Q 新しい端末ではYoutubeが視聴可能となっているのか。

A 視聴可能。情報モラルを徹底しつつ、活用が進むように考えている。

◆憩いの森の活用と有害鳥獣対策

Q 一等三角点をSNS映えするスポットとして活用してはどうか。

A 検討したい。

Q 遊歩道で流れていた熊よけ音楽が一時流れていなかったのはなぜか。

A 管理棟周辺の方からの苦情で一旦停止していたが、現在は管理棟の部分を除いて遊歩道は放送を開始した。

Q 管理車両の音楽は流れているか。

A 現在、スピーカーの搭載はない。徐行の徹底など利用者の安全に努める。

Q 熊のAI監視カメラの増設は。

A 熊の出没が増加傾向であるため、増設を考えていきたい。

Q 改めて健康増進地域として憩いの森を活用した取組を提案する。

A 健康増進の場としての活用が広がっていくことを期待する。

リチウムイオン電池の発火事故について



きむら けんじ
木村 賢治
議員

一問一答



動画でチェック

シェアサイクルとプログラミング教育について



はまぐち じゅんや
濱口 淳也
議員

一問一答



動画でチェック

◆シェアサイクルについて

Q 令和6年3月議会で登録者数を確認したとき、1,000人だったが、今現在は何人か。

A 利用回数は、令和6年度実績で1万950回と前年比54%増となっており、登録者数は、本年8月末現在で2,885人と前年同月比67%増と順調に増加している。

Q 炎天下に影もなく長時間自転車が置かれているが、バッテリーの安全性は大丈夫か。

A ドコモ・バイクシェアのシステムを導入しており、電動アシスト自転車については、ヤマハ製のパスシティという車両を運用している。ドコモ・バイクシェアでは、全国で2万6,863台、そのうち小松市と同型の車両1万1,925台を運用しているが、8月末時点でバッテリーの発火事故は確認されていない。

◆プログラミング教育の現状

Q 小松市における小学生から中学生までの学校でのプログラミング教育の取組

状況は。

A 小松市では、小学4年生が総合的な学習の時間にサイエンスヒルズこまつにおいてプログラミング体験教室を行い、5年生では算数「円と正多角形」、6年生では算数「比例と反比例」、理科の「発電と電気の利用」において、学習アプリや教材を活用してプログラミング的思考を中心に学習している。

中学校においては、技術科において教材等を使って計測、制御や双方向性のあるコンテンツのプログラミングについて学習している。

Q 小松市としての今後の方向性は。

A 今後、中学校の技術分野において、指導者の資質向上に資するようプログラミング学習の授業支援ソフトを検討するなど、学校教育でもプログラミング教育のさらなる充実に努めていく。

できる子はサイエンスヒルズこまつ等の施設でさらに伸ばし、そのようなプログラミング教育を推進していきたい。

農産物・担い手支援及び公共ライドシェア、指定避難所について



ひがし こういち
東 浩一
議員

一問一答



動画でチェック

◆農産物生産、担い手確保への継続的支援について

Q 小松産農産物利用促進のため、奨励金制度を求める。

A 飲食店等での小松産農産物の使用に対する支援制度については、販路拡大を目的とした取組として一定の可能性があると考えている。

◆南部地区の公共ライドシェアの取組と松東地区のデマンドタクシーの現状と支援について

Q 南部地区での実証実験は。

A 実証期間は11月から1月までの3か月間で、運行形態は、利用者の乗合によるAI乗合型ライドシェアとしている。予約方法は、アプリでの予約に加え、電話による予約も可能。

Q 松東地区のデマンドタクシー運行によるシビルミニマムと交通空白地域解消は。

A 新たな小松市地域公共交通計画策定を進めているところであり、適材適所の公共交通を組み合わせながら交通空白地域の解消を目指す。現在、路線バスが運行してい

ない五国寺町、正蓮寺町や松東地区乗合タクシー沿線地域にも最適な公共交通の導入を検討し、交通空白の解消を目指していきたいと考えている。

◆指定避難所設置、運営について

Q トイレカーは災害時以外にも、イベント等で活用できると考える。配備状況は。

A 広域的に活用することが望ましいと考えており、他の自治体の動向を見ながら検討していきたい。

Q 指定避難所における空調設備の整備は。

A 施設の空調設備の整備には時間を要するので、民間事業所との災害協定により、スポットクーラーやヒーターなどの提供を受け、避難所環境の改善に努めたいと考えている。

